

平成22年度事務事業実績及び前期4年間取組評価表

事務事業名	南信州グリーン・ツーリズム推進事業	会計	一般会計	事業No.	410	施策順No.	13-008
		事業種別	政策・その他	予算科目	0予算事業		
政策	1 多様な産業が発展できる経済力の強いまちづくり	課等名			農業課		
施策	13 地域内産業の多様な連携	事業期間	開始	15	終了		

1 事業の目的

事業の目的は「対象」を「意図」した状態にすることです	対象	農家(市民農園開設、どぶろく製造希望農家) 企業、NPO法人(市民農園開設希望)						A十分達成した Bどちらかといえば達成した Cどちらかといえばできていない Dほとんど達成できていない
	誰、何に	具体的な数値で表すと(対象指標)	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	
		市民農園開設等の相談があった農家等の数(件)		4	4	4	4	
		どぶろくの製造相談があった農家等の数(件)		1	1	2	3	
意図		・市民農園を開設してもらう ・農家民宿等での「どぶろく」の製造・提供してもらう						
対象をどう変えるか	事業の成果を具体的な数値で表すと(成果指標)	19年度実績	20年度実績	21年度実績	22年度目標	22年度実績	23年度目標	目標達成度
	市民農園開設数(件)	10	10	13	14	14	15	A
	どぶろく製造免許取得件数(件)	4	4	4	5	4	5	
22年度の目標達成度に対する振り返り【政策的事業のみ評価】	平成22年度に市民農園1ヶ所の新規開設があり、目標を達成することができた。							

2 手段(具体的な取り組み内容)

事業の制度(仕組み)説明	国の構造改革特区制度における規制緩和の特例を活かし、農村資源を生かしながら、農家民宿や市民農園など総合的なグリーン・ツーリズムを推進し、元気な地域づくりを支援する		
	事業内容	名称	活動量・単位
22年度事業内容	1 市民農園開設支援 (1)開設者及び希望者の相談受け入れ (2)市民農園紹介(ホームページや広報紙等各種媒体への情報の掲載) 2 農家民宿等におけるどぶろくの提供支援 (1)どぶろく提供施設のホームページや市広報紙等での紹介 (2)免許取得・製造技術指導等 3農家民宿開業支援 (1)新規開業希望者の開拓及び相談受け入れ	1 市民農園開設相談 (1)相談受け入れ (2)市民農園紹介 2 どぶろく提供施設紹介 3 農家民宿開業相談	1 (1) 2件 (2) 2回 1回 4件
23年度実施計画	1 市民農園開設支援 (1)開設者及び希望者の相談受け入れ (2)市民農園紹介(ホームページや広報紙等各種媒体への情報の掲載) 2 農家民宿等におけるどぶろくの提供支援 (1)どぶろく提供施設のホームページや市広報紙等での紹介 (2)免許取得・製造技術指導等 3農家民宿開業支援 (1)新規開業希望者の開拓及び相談受け入れ	1 市民農園開設相談 (1)相談受け入れ (2)市民農園紹介 2 どぶろく提供施設紹介 3 農家民宿開業相談	1 (1) 4件 (2) 2回 1回 4件

3 事業コスト

事業費	特定財源	(千円)	22年度予算額	22年度決算額	23年度予算額	特定財源内訳、補足事項
	国庫支出金					
	県支出金					
	起債					
	その他					
一般財源		0			0	
計(A)		0	0		0	
正規職員所要時間			120			
臨時職員等所要時間						
人件費計(B)			429			
トータルコスト A+B			429			

4 事業に対する市民や議会の意見

○市民の反応 H20年度は、新たに2件の市民農園の開設があったが、2件の閉園もあり総数は前年度と同数であった。開設中の農園は稼働率も高く安定している。農園利用の希望者からの問い合わせもあり、関心は高い。  
○農業委員会の意見 「農地取得等の下限面積引き下げ」については、地域の意見を汲みながら検討を進めてほしい。

5 行財政改革の取組内容【経常的事業のみ評価】

行財政改革の取組区分	【記載不要】	具体的な取組事項	【政策的事業のため記載不要】
21年度決算と比べての効果額(千円)	【記載不要】	効果額説明(算出根拠)、特殊要因	【政策的事業のため記載不要】

6 前期4年間の取組評価(総括)

上位の施策への結びつき	上位施策の目的	地域内産業が、多様な連携により新たな経済活動を創出する	施策の成果指標又はムトス指標	開発された観光プログラム数(累計)
この事務事業は施策の目的達成にどのように貢献しましたか	4年間の振り返り	当市は平成15年度に全国に先駆けてグリーンツーリズム特区を申請し、市民農園の開設、どぶろく製造、農家民泊、法人の農業参入への取り組みを行ってきた。こうした取り組みは地域の農業を活性化し、都市と農村の交流を活性化することにつながって、新たな経済活動を起こすことができた。なお、特区はどぶろく製造を除いて平成18年度には一般化されている。		
	後期に向けた課題	増加する遊休農地を活用する方法として、市民農園の開設も対応策のひとつと考えており、今後、推進していく必要がある。		
この事務事業の成果を向上させるためにどのような工夫をされましたか	4年間の振り返り	市民農園開設者、どぶろく製造者、農家民泊開業者(いずれも新規希望者を含む)のそれぞれに対する指導、支援を行ってきた。		
	後期に向けた課題	同業の取り組み主体相互の情報交換や交流を行う中で新たな課題を掘り起こし、地域の発展につなげていく必要がある。		
コストを削減するためにどのような工夫をされましたか	4年間の振り返り	ゼロ予算事業のため、関わった職員の人件費以外の支出は無い。		
	後期に向けた課題	特にない。		
受益者負担の程度、市が関与する程度は適切でしたか	4年間の振り返り	費用等は受益者が負担しており、市は事務的な支援を行っているため、関与等の程度は適切である。		
	後期に向けた課題	特にない。		
多様な主体の役割の発揮状況 ①その主体は誰で、どのような役割を果たしましたか。 ②その主体が役割を發揮するために、行政はどのような働きかけをしましたか、又は、配慮しましたか	4年間の振り返り	①市民農園開設者、どぶろく製造者、農家民泊開業者(いずれも新規希望者を含む)が主体である。 ②市は、それぞれの主体からの相談への対応や、申請や申告などの事務手続きの支援などを行ってきた。		
	後期に向けた課題	既に開設、開業している者への支援のみでなく、新たな取り組み主体の開拓に取り組む。		
全体を通じて	4年間の振り返り	全国に先駆けてグリーンツーリズム特区の認定を受け、事業に取り組んだことで、全国的に当市の知名度を上げ、高い評価を得ることにつながった。現在、特区はそのほとんどが一般化されており、全国各地で同様な取り組みが展開されているが、当市の事例が参考となっている部分も多い。		
	後期に向けた課題	過去の実績にとらわれることなく、新たな展開に取り組む必要がある。		

7 「対象」「意図」「結果」の関係の確認

事務事業を統合・分割する必要があるかどうか	ない	対象や意図を修正する必要がありますか	ない	成果指標や指標値を修正する必要がありますか	ない
-----------------------	----	--------------------	----	-----------------------	----

8 総合評価・次年度の事業の方向性改善の計画

<input type="checkbox"/> 完了	<input type="checkbox"/> 拡大	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 別事業に統合	<input type="checkbox"/> 休止廃止	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 目的見直し	<input checked="" type="checkbox"/> 事業のやり方改善
-----------------------------	-----------------------------	-----------------------------	---------------------------------	-------------------------------	--	--------------------------------	--